

## 分科会の記録 第5分科会 教職員の専門性に関する課題

### 【提言2 研究主題】

「若手教員（新採1年目～3年目）の授業力向上への取組」  
～教頭のマネジメント力を発揮して～

【提言者】 鹿島・嬉野・藤津教頭会 鹿島市立東部中学校 伊東 弘至

### 【協議の柱】

若手教員の資質能力の向上のために副校長・教頭としてどのようなマネジメントが有効か。  
また、地区内で連携してどのような取組ができるのか。

### 【協議内容】

・「コミュニケーション力」「ICT活用能力」「教材研究及び教材活用力」の3つの柱は、佐賀県の育成指標の中から地区教頭会で話し合って決めた。

・教職員が再任用職員や講師が多い構成になっているため、若手・中堅・ベテランの組み合わせができず、OJT研修による若手育成が効果的にできていない。教育事務所等のバックアップ研修を積極的に活用したい。

・若手教員の授業力育成のための事例

① 若手教員の補欠授業で、教頭が行った授業の板書を撮影する。後日、その写真を利用し、発問の仕方や学習のまとめ方等のアドバイスを。これを機に、若手教員からも授業づくりについて質問するようになり、コミュニケーションもとれるようになった。

② 教務主任と連携し、若手教員が先輩教員の授業を参観して学ぶ場を計画する。週案に授業参観のことを載せるとともに、若手教員の授業には教頭が入る。

③ 若手教員の授業参観をした際のアドバイスは、一番気になる場面（授業風景や板書、掲示物等）をタブレットで撮影し、内容を絞ってそのことだけを伝える。後日にどう改善されたかを見て、再度伝える。

・若手教員とコミュニケーションをとる際には、若手教員のよさ（得意なこと、専門的な知識等）を見つけ、ほめる。そのよさを引き出すことによって、若手教員は授業実践でも自分のよさを生かすようになり、自信につながる。

・ICT活用能力の育成の一つとして「Canva」を紹介している。簡単な情報を与えるだけで若手教員自身が授業で使ったり、当番表を作成したりと積極的に利用している。研究授業でも「Canva」を活用した実践を行い、事後の話し合いで話題にし、活用方法を広げることにつながった。（「Canva」は、教材や資料が簡単に作成できるオンラインプラットフォームです。）

### 【指導助言】佐賀県教育センター 課長 森 義孝 氏

・提言は若手教員育成のため、研修時間確保とメンバー構成や研修内容の工夫をしてチームで育て、若手教員自身に達成感や満足感を与えている。また、授業づくりでは、環境づくりや若手教員のよさを引き出す工夫をすることの大切さが伝わってきた。

・若手教員の人材育成のために、

① 信頼関係の構築

若手教員に経験を積ませ、よさを褒める。そのことで、安心感や信頼感が構築される。

② 組織を生かして育てる。

組織で対応し、若手教員の柔軟性や判断力を伸ばし、責任感を育てる。実践した裏打ちが自信につながる。

・管理職における人材育成について重要なのは、若手教員を理解・評価を行い、協働意識を醸成していくこと。そのために大切なこととして、

① 一人一人の教職員の状況を多面的に捉えることから始める（学級経営、心身の健康等）

② 有言実行を肝に銘じて、教職員の適切な目標設定と現状の適切な把握を促す

③ 教職員相互の関わり合いを作り出し、互いの学び合い、教え合いを活発化させる